

[特別支援教育]

仲間と共に自分らしく生活し学ぶ子どもをめざして

— 交流教育と障害理解授業を通して —

毛見 千春*

1 はじめに

私は特別な支援を要する子どもたちと共に学校で学び始めて約8年となる。特別支援学校（以前の養護学校）で4年間、小学校の特別支援学級で4年間担任した。どちらも特別支援教育ではあるが、両者には大きく異なる点がある。それは、「通常の子供達との関わり」つまり「交流教育」である。

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所のホームページ「障害のある子どもの教育について学ぶ」の中で、次のように交流教育の意義を述べている。

「交流教育の意義は『障害のある児童生徒が、交流教育を通じて、様々な活動を体験し豊かな人間関係を図り、障害のない児童生徒や地域の人々を理解し合う機会』と捉えられている。

交流教育は、同じ社会に生きる人間として、互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくための基盤づくりともなる重要な活動である。」

特別な支援を要する子どもたちにとって、人との関わり・コミュニケーションはとても大きな課題であり、生きていく上で必要不可欠なことである。特に小学校では、様々な場面で友だちと関わったり協力したりすることが多々ある。まして、障害の特性が軽ければ軽いほど、通常の子供達と一緒に経験することや関わるのがさらに頻繁になる。それが原因となってトラブルも増加する傾向にある。

今まで担任したほとんどの子どもたちが、いじめられるという経験をもっていた。周囲には自覚がなくても、本人はいじめられたと感じているのである。それが原因で交流学級に行けなくなる児童も多くいた。どのようにすれば特別な支援を要する子ども達を理解してもらえるのか、どうすれば仲間と共に自分らしく生活し学ぶことができるのか、という課題が常にあった。

もちろん、特別な支援を要する子ども達にはたくさんの課題がある。特別支援学級ではそれを一つ一つ学習したり、練習したりして、一緒に活動ができるようにがんばっている。しかし、いくら本人が努力しても受け入れてもらえないことがあるのが現状である。交流教育はとても大切ではあるが、両者を野放しにすることができるものではない。きちんとした手だてを講じることが不可欠である。そこで、次の研究仮説を立て、実践を試みた。

2 研究仮説

交流学級の児童に対して特別な支援を要する児童の障害理解授業を行い、実態を理解してもらい、適切に関わり合える支援をすることで、特別な支援を要する児童が学級集団の中で自分らしく生活し学ぶことができるようになるだろう。

3 研究の方法

(1) 対象児の実態

2年生の男子Aくん。2年生の4月から特別支援学級に在籍となる。ADHD傾向が強く、アスペルガー症候群も併せもっている。

1年生入学当時から落ち着きがなく、声が大きいため目立っていた。5月の運動会頃までは比較的集団行動ができて

* 柏崎市立半田小学校

いたが、その後徐々に教室内での徘徊が始まり、ルールに従えず、他児に迷惑をかけるようになっていった。一年生の半ば過ぎからは教室を抜け出すようになった。12月に妹が生まれると情緒的に不安定になり、冬休み明けの状態が非常によくなかった。授業中も廊下で大声を出し、逃げ回る。他の教室にも出入りし、電気やCDデッキをつけたり消したりする。学習参観で大勢の保護者の前でロッカーの上を走り回り、黒板消しを投げつけた。友だちに対して叩く、引っ掻く、つばを吐くといった行動は日常茶飯事であった。さらに友だちの首を絞め、跡が残るまで自分を制止することができなくなってしまった。

(2) 対象児の交流学級のアセスメント

① 観察（実態把握）

交流学級は2年3組（男子12名 女子12名 計24名）。1年生からクラス替えのない2年目のクラスである。

A児以外は、比較的穏やかな児童が多く、全体的に落ち着いた雰囲気である。そのため、A児の言動がそのまま学級の雰囲気に反映される。A児が落ち着いていると学級も穏やかになり、反対にA児が大声を上げると学級も騒然となる。しかし、それに同調して騒ぐ児童はいない。保育園の頃からA児を知ってる児童が多く、対応に慣れている。それでもやはり、学習を妨害されたり危害を加えられたりすると、大きなストレスになることは間違いない。担任や親へ頻繁に訴えている。非常に我慢している状態が1年以上続いている。

そんな中でも、A児により対応をしてくれている児童がいる。話を聞き、A児に優しく接する理由・適切に対応するコツなどを聞いて把握した。そして授業の中でその接し方を紹介した。（匿名で紹介）

② 担任との連携（共通理解）

交流学級の担任とどのような内容で授業を行うのか検討した。どういう話し方が子どもたちにとって理解されやすいのか、伝わりやすい例などを一緒に検討した。また、子どもの特徴や指名の仕方なども教えてもらった。そして授業の途中でも気が付いたことがあったら、その都度伝えてもらうことや、話にも参加してもらってよいこと等も確認した。

③ 事前アンケート（H23.7.4実施）

「本人のことをどう思うか」「よい所や直してもらいたい所」などを事前に児童から書いてもらった。授業を進める上でとても参考になった。座席表に簡単に記録しておき、指名の際の参考にすることができた。

〈A児の交流学級にとった事前アンケート結果〉

Q, Aくんをどう思いますか？	
1	机が隣の時、何にもしていないのにすぐにハンカチをとったり、つねったり、がりしたりするからいやだ。
2	いやなことをするのがちょっと気に入らない。わけは、自分にはやなことをあまりされていないけど、されている人を見ると自分もイヤな気持ちになるから。
3	ちょっといやなことをすると、いやなきもちになります。なんでかというAくんは元気すぎていやなことをしてしまいます。だからやめてください。
4	わるい所は、うそをつくところ。なぜかというおにごっこをしてはんそくをするところ。いじわるをするところ。
5	しつこい。わけは、キスをしようとするから。つねったりする。ちくちくことばをつかう。
6	なにもおもわない。
7	悪い子だと思います。わけはつねったり、ひっかいたり、悪口をいったりするから。
8	わたしはAくんのことを少しすきなことがあるし、きらいなこともあります。わけは、少しすきなときはあまりいじわるしないから。きらいなときはいじわるするからです。
9	いじわるだけどやさしいところも少しある。いじわるなわけは、保育園の時から1年生も2年生でもつねったりされるからいやだ。やさしいわけは、たまにほにゃほにゃ言って、言うときやってくれるときがあるから。
10	Aさんは、いい子だと思います。わけは、いつもあやまるからです。
11	やさしいときもあるし、こわいときもあるし、ぼくはやさしいところが大好きです。
12	Aくんはいい時もいやな時もあります。たぶんAくんは悪いことがわかるとおもうけど、かつてに体が動いちゃうと思います。いやなことをしてもちゃんとあやまってくれればゆるします。でもいやな時はいやです。
13	Aくんは2の3のだいいな友だちだけど、たまにつねったりいじわるをしたりします。でもやさしいときが多いです。でも私はAくんがいじわるをしてきてもやりかえしません。
14	たまにちょっといじわるをしちゃうけど、たまにすごくいい子になるところがいい子だなと思う。
15	たまにひっかいたりするけど、すぐに「ごめんね」や「ありがとう」が言えるからえらいと思う。

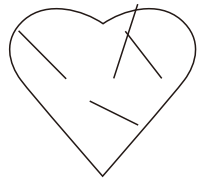
(3) 障害理解授業の実践 (H23. 7. 12実施)

① 授業の流れ

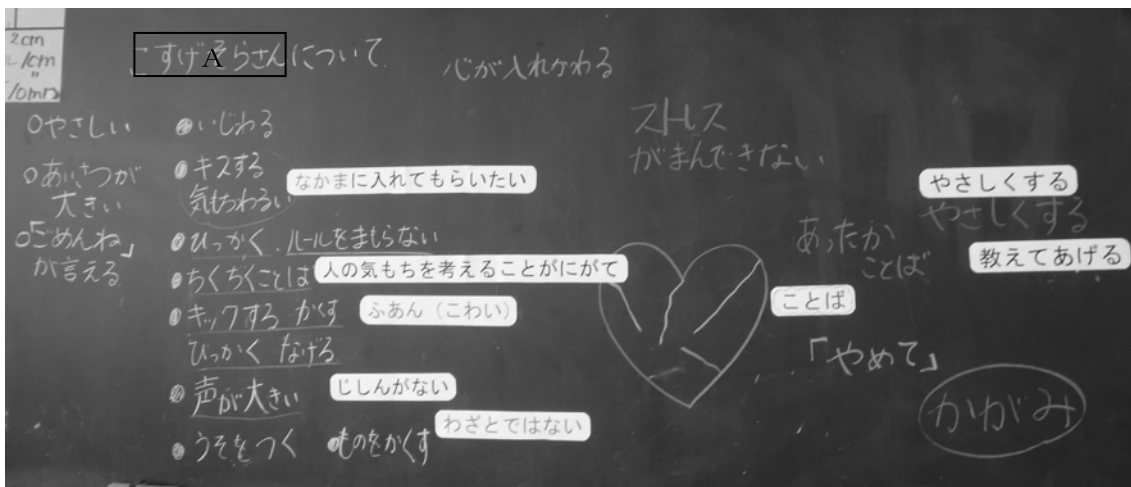
〈ねらい〉

○Aさんのことについて理解を深め、これからどのように対応していけばよいかを知り、実行しようとする。

○お互いのことを認め、支え合い、いじめのない仲の良いクラスにしようとする。

時	教 師	児童の反応・話の例
0	今日は「Aくん」と「友だち」について学習したいと思います。 ①Aについて理解する 「まずAくんってどんな人ですか？」 「いいところ・直して欲しいところはどんなところですか？」	●おしゃべりが多い・声大きい ●たたいたり、蹴ったりする ●授業中歩き回る ●自分勝手・わがまま ○よく発言する
10	みんなが感じているとおりAくんはこういう人です。いいところもよくないところもあります。みんなもそうだよ？先生もそうです。誰だって弱いところがあります。Aくんはみんなよりちょっとだけ弱いところをたくさん持っているのです。 「声大きい・よくしゃべる」＝「自分に自信がない・認めてもらいたい・仲間に入れてもらいたい」からなんです。みんなもそういうときありませんか？「入れて！入れて！」と大きい声でアピールしないと仲間に入れてもらえないと思うこと。 同じように「授業中歩き回る」というのも、みんなが今何をしているのか、自分がこれでいいのか、とても不安なんです。だから、みんなの所へ行って確かめようとするのです。一人で机に座ってられないのです。不安でこわくて…。 「自分勝手・わがまま」＝「周りや人がどう思っているのか分からないのです。」 特別支援学級2組でそういう勉強もしているのです。 「自分勝手・わがまま」＝「そうすることで自分を守っている」これも不安の表れなのです。 だから、 <u>わざとやっているわけではないのです</u> 。Aさん本人もそれですごく困っているのです。 もちろん、Aさんにもがんばって直してもらわなければならないことがたくさんあります。でも、分かって欲しいのはAさんが <u>全てわざとやっているわけではない</u> と言うこと。直そうと思っても直せない弱い所や苦手な所や癖などがあるということ。そういうことでAさんの心は、今、すごく傷ついているのです。 ・抑えようと思ってもつい手が出てしまう。すぐに「ごめんなさい」と謝るが、やってしまった…「おれって悪い子？先生…」ととても落ち込んでいる。 ・友だちに置いて行かれる・嫌われる… ・先生に叱られる・お母さんやお父さんに叱られる… Aさんの心は今、傷だらけです。これを分かって欲しい。	○やさしい ○おもしろい 自分に自信がない・認めてもらいたい 不安で、こわくて一人でいられない お友達の気持ちが分からない わざとやっているわけではない 弱さ・苦手・癖 心が傷ついている 
25	②Aの気持ちを理解する(資料1) 「Aくんからみんなへメッセージを預かってきたので読みます」 「どう思いましたか？」	C：友だちになりたいんだね C：やさしいね

<p>30</p> <p>35</p> <p>40</p>	<p>③これからの行動を考える</p> <p>どうすればいいのか？話せる「ことば」はとてもすばらしいこと。とても大事。「ことば」は人に気持ちを伝えることもできる。でも 人を傷つける武器になることもある。でも 逆に傷を癒すのも「ことば」なんだよね。</p> <p>Aくんだけでなく 傷ついている人は他にもたくさんいる。この世の中で生きていくことって大変なんだ。だからこそ みんなで支え合って行かなければならない。傷つけ合うのではなく 支え合う。でもAくんがちくちくことばを使うときもあるよね。</p> <p>みんなも分かっているように Aくんはいい時もよくないときもある。だれにでもあるよね。ねむい時やお腹が空いている時は機嫌悪くなるし でもよく寝た後やお腹がいっぱいの時はニコニコになる。Aくんも同じなのです。原因がよく分からない時がある。Aくんにも分からない時があるのです。</p> <p>それなのに そういう時にもきちんとAくんに教えてくれる人がこのクラスにはいます。その人に話を聞くと</p> <p>「嫌な時は「やめて!」とはっきり言う。そして〇〇するといいよ。と教える。そしていい子のAには優しくする。」</p> <p>このクラスにはやさしい人がたくさんいる。</p> <p>「みんなはこれからAくんにどのように関わっていきこうと思いますか？紙に書いて下さい。」</p>	<p>C：やさしくする。声をかける。 教えてあげる。かしてあげる。</p> <p>言葉の大切さ 伝える 武器 癒し</p> <p>傷ついている人は他にもいる 人生は厳しい 一人では生きていけない 無視もいじめ</p> <p>支えてくれる人を紹介する</p> <p>やさしい子がたくさんいる</p>
-------------------------------	---	--



〈授業実施にあたっての配慮事項〉

まず、本人がその場にいた方がよいのかいない方がよいのか。ケースバイケースであると思うが、私が今まで行った授業は全て、本人は別室（特別支援学級）で学習し、その場にはいない状態で行ってきた。その方が子どもたちの本音が出やすいし、本人が傷つくこともないと考えたからである。

それでも交流学級の子どもの多くは、私が特別支援学級の担任であることは分かっており、特別な支援を要する児童の見方だと思っている。だから、学年が上がれば上がるほど本音がなかなか出ない。

そこで、私は授業の最初に「本人について、いい所・直してもらいたい所」を聞くことにした。そして、それを元に授業を進めた。なぜそういう行動をとるのか、なぜ人に迷惑をかけてしまうのか、直してもらいたい所を中心に、その行動の裏側にある本人の心理状態・特性をできるだけ分かりやすく説明しようと努めた。

その際、「わざとではない」ことを強調した。誰にでもあることであるが、本人は少しそれが強すぎたり、自分の力ではコントロールできない状態であると説明した。

しかし、当然本人も努力して直していかなければならない。現在、それを特別支援学級で学習しているのである。み

んなに迷惑をかけていることは本人も分かっている。しかし自分でもうまくいかず、一番苦しんでいるのは本人であることを理解して欲しいと訴えた。そのことで心には傷がたくさんあることを図に表しながら説明した。

高学年であれば、さらに心に傷をもっているのは本人だけではない、誰にだってあるのだ、だから本人は特別な存在ではない、みんなと同じ人間なんだということも付け加えていく。そうすることで、特別視を防いでいきたいと考えた。低学年の場合は、本人以外の例を出すと混乱を招く恐れがあるので、あくまで本人の話を中心に行った。しかし、本人はみんなと同じであることも付け加える程度に説明したほうがよいと感じている。

② 本人からの手紙

本人が学級の人々に向けて、言いたいことを手紙に書かせた。その手紙を授業の最後に読んだ。本人の気持ちを初めて知る児童も多く、子どもたちの心にも響くからである。

その際、手紙の内容には十分配慮する必要がある。交流学級の子どもたちへの批判が多い場合、反感をもたれる可能性がある。取捨選択して、受け入れられるような手紙に修正した。しかし、できるだけ、本人の気持ちがそのまま伝わるよう心がけた。A児が書いた手紙を教師が代読した。(資料1)

2年3組のみんなへ	Aより
・いつもやさしくしてくれてありがとう。	・いつもいろいろ教えてくれてありがとう。
・ティッシュがない時もかしてくれてありがとう。	・これからもいっしょにあそぼうね。

③ 対象児A(心に傷をもっている人)への手紙

授業の最後に、クラス全員から本人への手紙を書いてもらった。それを匿名で一覧にし、全員に配布し、考えを共有した。そうすることで同一歩調で特別な支援を要する児童に接していくことができると考えた。

4 結果

(1) 授業の様子

交流学級の子どもたちは、個人差はあるものの、自分の考えや思いをたくさん話してくれた。ほぼ指導案どおりに進んだが、初めは一部の否定的な考えの児童に押された形になった。次第にA児に対して肯定的な意見と否定的な意見が対立していった。「叩いたり蹴ったりするから嫌だ」「急に態度が変わるから困る」と言った否定的な意見に対して、でも「やさしいところがあるよ」「すぐに謝ってくれるよ」と言った肯定的な意見も出された。

「わざとではない」こと「A児の心も傷ついている」ことなどの説明を、みな真剣に聞いていた。

(2) 授業後のアンケート(H23.7.12実施)

事前アンケートと比較するとほとんどの児童がAを肯定的に受け止めているのが分かる。特に網掛けの言葉は、私が授業で伝えたかったことをきちんととらえている言葉である。

〈授業後に児童が書いたA児への今後の関わり方について〉

Q	Aくんやきずついている友だちにどのようにかかわっていきますか？
1	もし Aくんが友だちにいじめられていたら「だいじょうぶ。いっしょに遊ぼう!」と声をかけてあげる。
2	下校の時 Aくんが追い越しちゃった時「だめだよ」とやさしく言う。Aくんがぼうりよくしたら「Aくんは Rちゃんのお兄ちゃんだよ」と言う。
3	・みんなにありがとうって言う。あったかことばをつかう。・みんなを仲間に入れさせてあげる。・みんなにちくちくことばを言わない。・みんなにごめんねって言う。・みんなにだいじょうぶだよって言ってあげる。・みんなに遊ぼうって言う。
4	いじわるをしない。
5	あったかことばをつかう。やさしくする。
6	やさしくしてあげる。あったかことばを使う。
7	やさしくして なにかイヤなことがあったら助けてあげる。
8	また やさしくしたいし いっしょに遊びたいです。
9	やさしくして これからも友だちだからなかよくして じぶんから声をかけてあげる。「遊ぼう!まずなにをする?」って言えば 仲よくしてくれると思う。

10	やさしくしてあげます。Aくんはこれからもいっしょです。これからもやさしくしてあげる。
11	ちくちくことばを言わないで楽しく生活していく。
12	Aくんがいいことをしている時 たくさんあったかことばを言ってあげる。だめなことをした時は教えてあげる。
13	「やめて」と言ったり「だいじょうぶだよ」と言ったりする。そして「いっしょに遊ぼう！AくんはRちゃんのやさしいおにいちゃんだよ」という。これからもなかよくしてね。
14	Aくんにやさしくしたいです。他の人にももちろんやさしくしたいです。Aくんにもやさしくなしてほしいです。
15	これからAくんがキックやひっかいていたら 「ことばで言わないと伝わらないよ」と教えてあげる。

(3) 授業後の姿

事前アンケート・授業後アンケートのNo.は同じ児童である。No.1の女子はA児と席が近く、よくつねられたり叩かれたりして辛い思いをしている児童である。そのせいか事前アンケートでは否定的な捉えだった。しかし、授業後は、A児を助けようとする意識の変容がみられるようになった。

No.2の女子は授業をよく聞き、「悪いことはしっかりと教えるが、優しく言う」ということをしっかりと理解していた。その後もずっと同様の態度で接し、A児からも信頼される友だちになっている。

No.5の男子はA児の憧れの存在でいつも追いかけていたため、「しつこい」と感じていた。A児にはきつい言葉が多かった。しかし授業後は、言葉もやわらかくなり、対応も優しくなった。

No.15の男子は並ぶ時にはいつもA児の隣で、A児のよい所もよくない所もよく理解している児童である。A児に何かをされると黙って受け止めてくれたり、時には叱ってくれたりする存在である。この児童は授業後のアンケートに「『ことばで言わないと伝わらないよ』と教えてあげる」と書いている。「ことば」の大切さに気づいている姿をとらえることができた。

全体的にA児が困っていると助けてくれる子が多くなった。今までA児が何かするときつく注意していた子どもたちが、最近ではA児の不適切な行動に対しても「こうするんだよ」と優しく語りかけ、短い言葉で教えてくれるようになった。また、A児が大声を出しても、軽く受け流してくれるようになった。

A児本人は、交流学級で学習することを楽しみにするようになった。4月から国語と算数は特別支援学級で学習するようになったが、交流学級が気に入り、戻りたいという気持ちが強くなっている。

〈A児の授業後の感想〉

2年3組のみんなはほくにやさしくしてくれます。ほくが転んだ時や泣いた時には「だいじょうぶ？」と声をかけてくれます。ほくが悪い子になった時は「やめて」とやさしく言ってくれます。ほくが「ごめんね」というとゆるしてくれます。ほくは2年3組が大すきです。国語や算数もはやくみんなといっしょにできるといいです。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・交流学級の児童にとって、今まで保育園からずっといっしょにいた子どもたちにとっても、この授業を通して、A児について初めて知ったこと・分かったことが多くあったようである。多くの子どもたちにA児に優しく対応しようとする変容がみられた。
- ・今までA児とはあまり関わろうとしなかった児童も、「教えてあげよう」という気持ちが出てきたことは大きな成果であると考えられる。A児に声をかけてくれる児童の数が増加した。
- ・A児本人も友だちが増え、また少しずつではあるが交流学級で正しい行動がとれるようになってきている。

(2) 課題

- ・授業の後、交流学級の子どもたちにはよい変化がたくさん見られた。しかし、時間がたつと徐々に元に戻ってしまう児童もいた。一度だけでなく、2回目・3回目とそれぞれの段階における指導の必要性を実感した。
- ・周囲に迷惑をかけず、より交流学級の中で認めてもらえるよう、A児本人の自己理解やコミュニケーション能力を高める指導にこれからも継続的に取り組んでいきたい。

(参考文献) 細川佳代子プロデュース「知ってる？発達障害 ワークブックで考えよう」ミネルヴァ書房、2009年